

(様式2)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」  
メニュー①-1 学力向上実践研究 (小・中学校)  
平成22年度委託事業完了報告書  
【推進地区】

都道府県名	山口県	番号	35
-------	-----	----	----

推進地区名	長門市
-------	-----

○推進地区として実施した取組の内容

1 重点課題への取組状況

(1) 重点課題

児童生徒の「確かな学力の育成」を図るため、「小中一貫教育による学校づくりをとおして、学力向上対策を推進する」

(2) 取組の内容

内容については、次の2点である。

○ 全国学力・学習状況調査及び長門市学力・学習状況調査の実施・分析に基づき、学力向上プランを改善し、授業改善につなげる。

○ 学校と保護者・地域と共に紡ぐ小中一貫教育「長門みすゞ学園構想」の実現を、市内7ブロック(中学校区)で推進する。

(3) 重点課題に対する具体的な取組

① 全国学力・学習状況調査の実施

・市内の全小中学校(小学校11校、中学校7校)で実施し、分析結果を学力向上プランに反映させた。

② 長門市学力・学習状況調査の実施

・小4、小5、中1、中2を対象に実施し、全国学力・学習状況調査との比較分析や追跡調査によって、児童生徒の学力を把握した。

③ 学力向上プラン改善研修会の実施

・各学校で作成している学力向上プランを充実させ、PDCAサイクルによる学力向上のシステムの確立に向けて改善を図った。

④ 学力向上カリキュラム作成委員会の立ち上げ

・小中9年間の学びを、一貫のカリキュラムでとらえ直し、実効性のある学力向上カリキュラムをめざし、モデルカリキュラムを作成した。(国語、算数・数学)

⑤ 長門市夏季教育研究講座の開催

・教員を対象に、特別支援教育を取り入れた授業力の向上を目的とした研究講座を開催し、資質の向上を図った。

⑥ 長門市学校教育研究大会の開催

・市内小中学校の教職員が一同に会し、各学校の研究成果を紹介し、小中一貫推進地域(広島県呉市教育委員会)から講師を招聘し、小中一貫教育「長門みすゞ学園構想」の具現化に向けて共通理解を図った。

⑦ 「子どもが本気になる授業づくり」研修会の開催

・算数・数学に特化しての授業づくり、授業のユニバーサルデザイン化(すべての児童生徒に質の高い同一の授業を保障)、学級づくり等、4回の研修会を設定し、小中のグループ協議を取り入れ、教員の資質向上を図った。

## 2 3年間の成果

(1) 全国及び長門市学力・学習状況調査の分析結果による小・中各学年の傾向

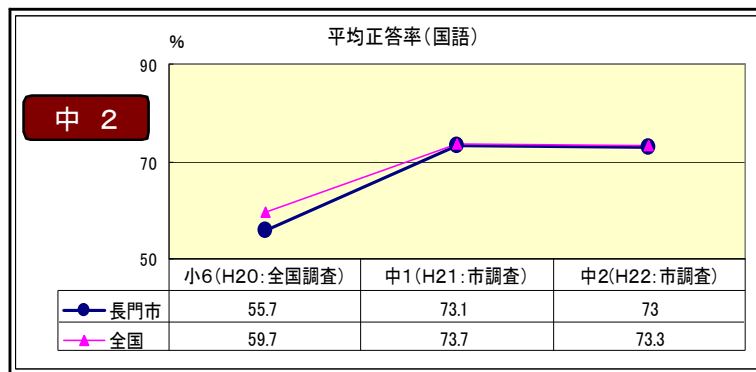
① 成果と課題 (全国平均を上回っている項目…○、下回っている項目…▲)

	小4	小5	小6(全国)	中1	中2	中3(全国)
国語	成果 ○「話す・聞く力」 ○音声言語	○「話す・聞く力」 ○音声言語	○基本的事項の定着	○「話す・聞く力」 ○音声言語	○「話す・聞く力」 ○音声言語	○基本的事項の定着
	▲「書く力」 ▲説明的文章	▲「書く力」 ▲文学的文章	▲「書く力」(あ らすじ・理由・説 明) ▲漢字の読み書き	▲「書く力」 ▲「読む力」と言語 事項で二極化	▲「書く力」 ▲「読む力」と言 語事項で二極化	▲「書く力」(表 現の読み取りから 説明) ▲同音異字語
算数・ 数学	○基本的事項定着 ○数量関係	○基本的事項定着 ○量と測定	○四則計算 ○B問題(活用)	○数学的な表現処理 ○数と計算 ○図形	○数学的な考え方 ○数と式 ○資料の活用	○基本的事項定着 ○B問題(活用)
	▲数学的な考え方 ▲数量・図形につ いての表現・処理	▲数学的な考え方 ▲数と計算	▲小数・分数 ▲理由の説明・関 係の読み取り	▲数学的な考え方 ▲応用 ▲数量関係	▲表現・処理 ▲応用 ▲関数	▲負の整数・自然 数・図形・関数 ▲証明・説明

② 考察

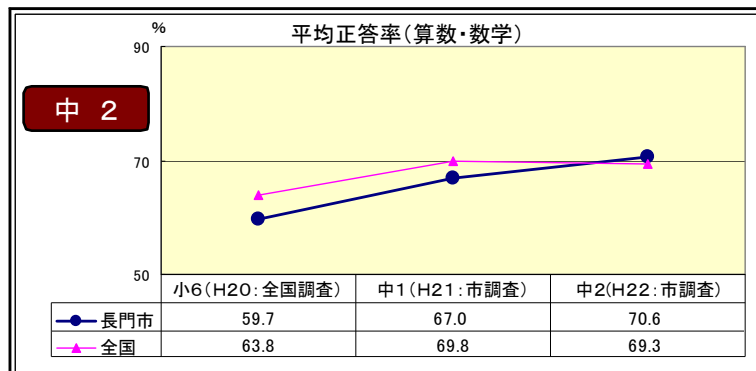
- ・ 小学校における「数学的な考え方」は低学年から重点的な取組が必要と考える。
- ・ 小学校では児童の授業への興味・関心が高く理解もできているが、定着に課題がある。
- ・ 国語と算数・数学の伸びは比例しており、総合的に学力は向上すると考えられる。

(2) 全国及び長門市学力・学習状況調査〈国語、算数・数学〉の「小6～中2」の経年比較



《国語》  
【-】小6の調査では-4.0%全国平均を下回った。  
【+】中1～中2では、全国平均とほぼ並ぶ結果であった。  
\*基礎・基本の定着の向上は見られるが表現力の向上が課題である。

- 小6から中1の伸びが著しい。  
→ 学習習慣の定着・意識付けを成果ととらえる。



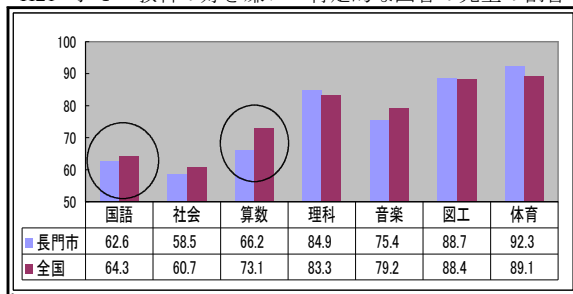
《算数・数学》  
【-】小6では、-4.1%と全国平均を下回り、中1でも-2.8%と下回った。  
【+】H22年度の中2では、+1.3%と全国平均を上回る結果であった。  
\*基礎・基本の定着及び活用する力の向上も見られる。

- 小学校から中学校への「学び」のつながりによる成果ととらえる。

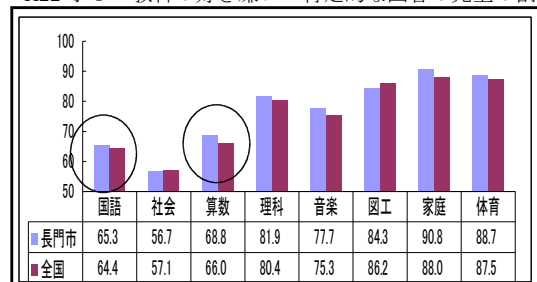
(3) 長門市学力・学習状況調査の経年比較 (平成21年度 小4→平成22年度 小5)

① 小4→小5 国語・算数において、肯定的な回答(好き)が全国平均を上回った。

H21 小4-教科の好き嫌い-肯定的な回答の児童の割合



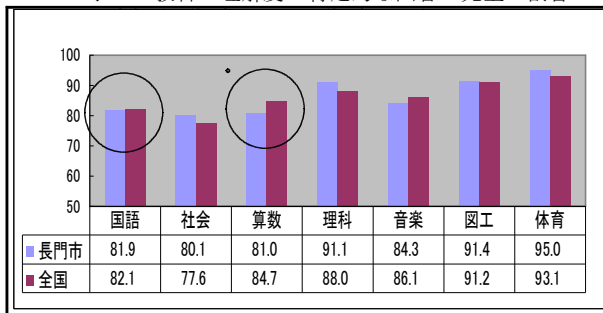
H22 小5-教科の好き嫌い-肯定的な回答の児童の割合



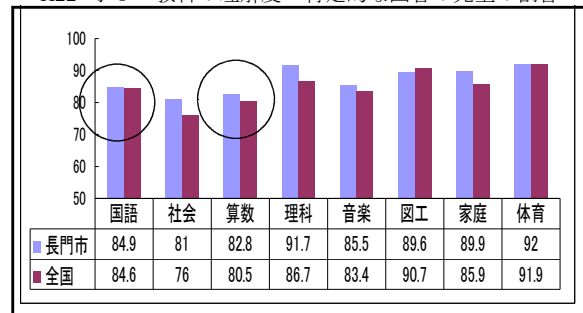
肯定的な回答・・・国語（全国比 H21-1.7 → H22+0.7 2.4の向上）  
算数（全国比 H21-6.9 → H22+2.8 9.7の向上）

② 小4→小5 国語・算数において、肯定的な回答（理解度）が全国平均を上回った。

H21 小4－教科の理解度－肯定的な回答の児童の割合



H22 小5－教科の理解度－肯定的な回答の児童の割合



肯定的な回答・・・国語（全国比 H21-0.2 → H22+0.3 0.5の向上）  
算数（全国比 H21-3.7 → H22+2.3 6.0の向上）

以上のように、国語・算数（数学）における学力の向上は、（3）の①の結果「学習に対する関心・意欲（好き嫌い）」・②の結果「理解度」と大きく関係している。今後も、児童生徒を中心に授業改善が重要であろう。

### 3 今後の課題

児童生徒の「確かな学力の育成」を図るための、今後の課題は次のとおりである。

- (1) 小中一貫教育の取組として、異校種間の研修のさらなる推進
  - 学力調査の結果をもとに各ブロックの課題を把握し、授業改善へつなげたい。
  - ・例えば、小学校と中学校が互いに学力調査の結果をつきあわせて検証・考察する。
- (2) コミュニティ・スクールを基盤にした地域・家庭・学校が協働の小中一貫教育の推進
  - ・家庭学習の充実（学習習慣）と地域人材の有効活用（学習支援ボランティア）
- (3) 長門市学力・学習状況調査の実施とデータ分析の継続
  - 市内の小4、小5、中1、中2を対象に実施している長門市学力・学習状況調査を、全国学力・学習状況調査と比較分析したり、複数学年の追跡調査を行ったりして、児童生徒の学力の伸びを客観的に把握できるようデータを蓄積していく。
- (4) 児童生徒を中心に据えた校内研修の体制づくり
  - ・教員同士が児童生徒の実態（各校の成果と課題）を把握し、情報の共有化を図る。
  - ・ワークショップ形式の研修やユニバーサルデザイン授業の研究推進
- (5) 各みすゞ学園における独自の小中一貫教育教科カリキュラムづくり
  - ・学力向上カリキュラム作成委員会のモデルカリキュラムを基に、各みすゞ学園独自のカリキュラムを小中教員の協働によって作成する。

現在、長門市としては、知・徳・体のバランスのとれた長門の子どもを常に意識し、志向している。これまで積み重ねてきた実践を基に、今後は「足腰の強い学力の育成」に取り組むたい。

長門の子どもにバランスのとれた「生きる力」を育てるためには、教職員のみならず、保護者や地域住民が、基本的な学力観を共有することが、今後ますます重要になろう。「確かな学力」もその中で育まれるものと考えている。

そのためにはまず、家族から愛され、友達から認められ、先生から信頼される「自己存在感」「自己肯定感」を児童生徒がしっかりとつという土台づくり・環境づくりが重要である。将来にわたって様々な資質や能力を身に付けたり、発揮したりする際の基本領域と言えよう。生活意欲・学習意欲をもって取り組む児童生徒に、足腰の強い学力を育みたいものである。

そして、教科の学力と生活の学力がともに「使える学力」として、昇華されることを強く願っている。